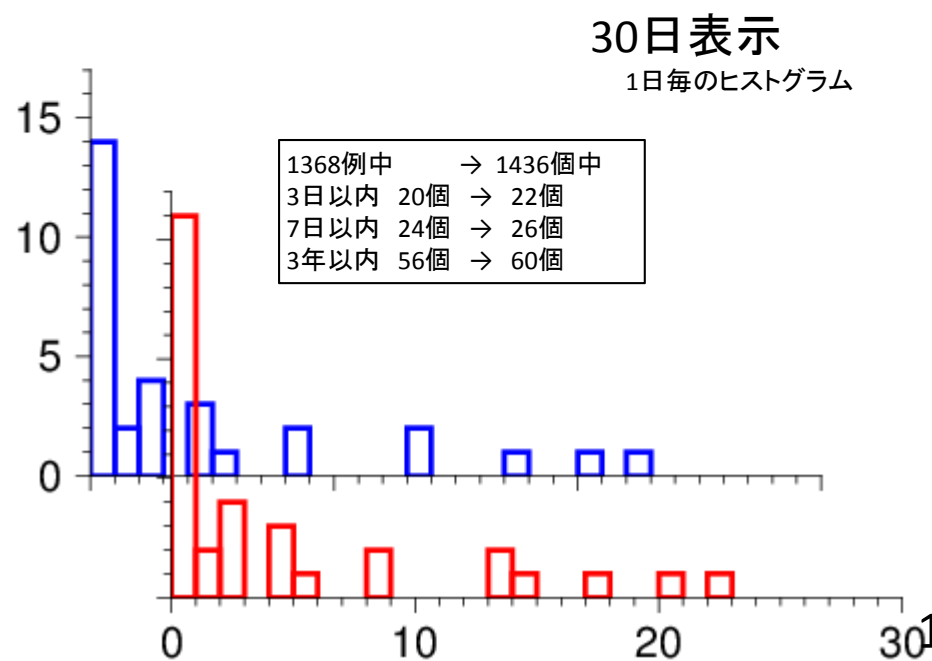
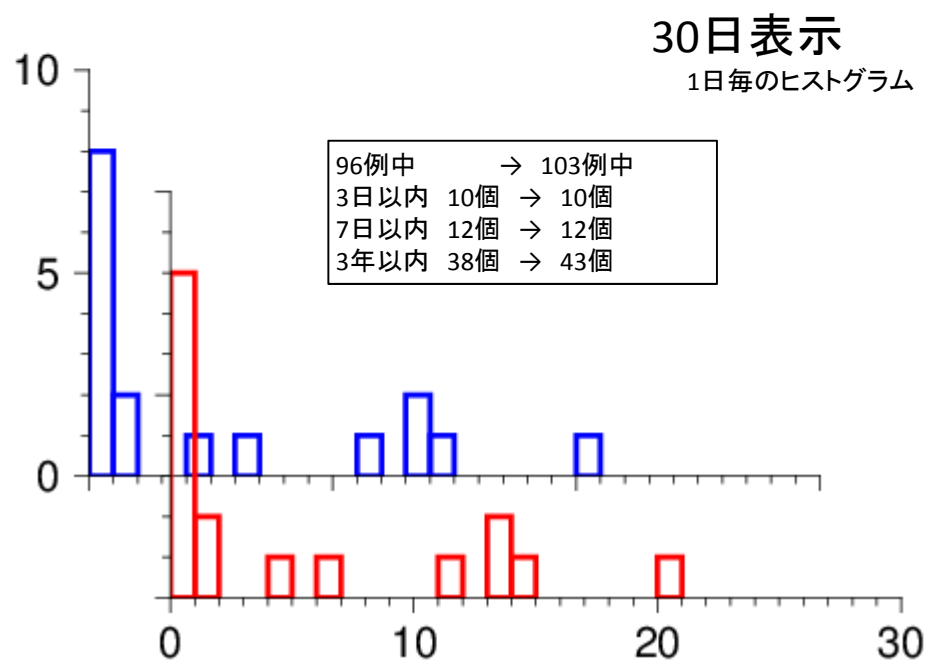
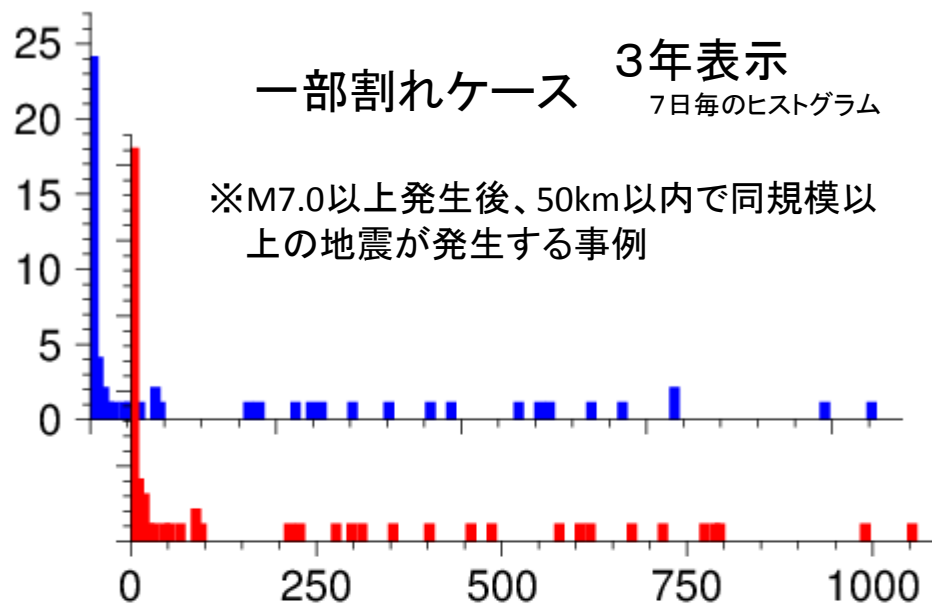
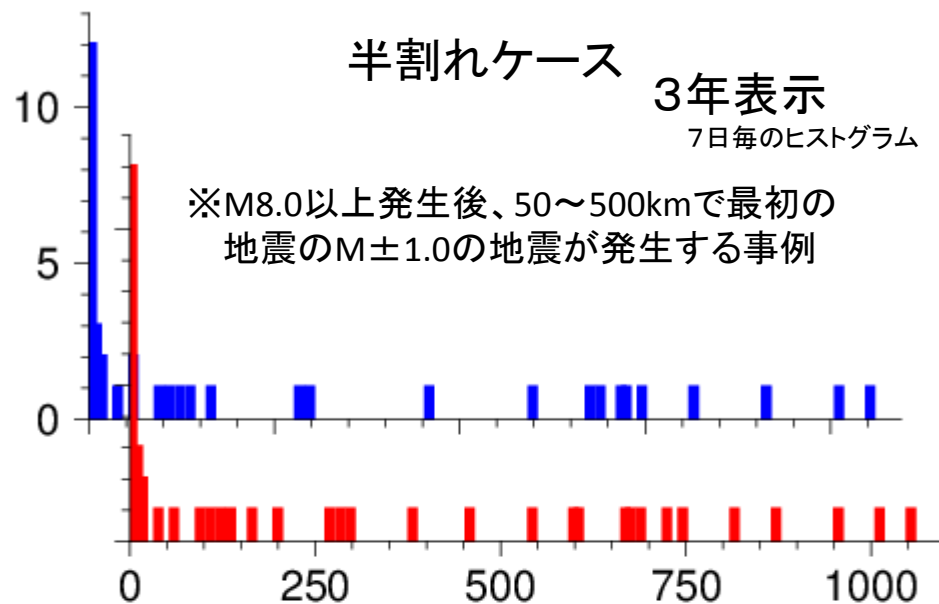


過去地震の統計データ
の再整理について

震源データを最新ISC-GEM利用

■ 報告書に基づく事例
■ 改訂されたISC/GEMに基づく事例



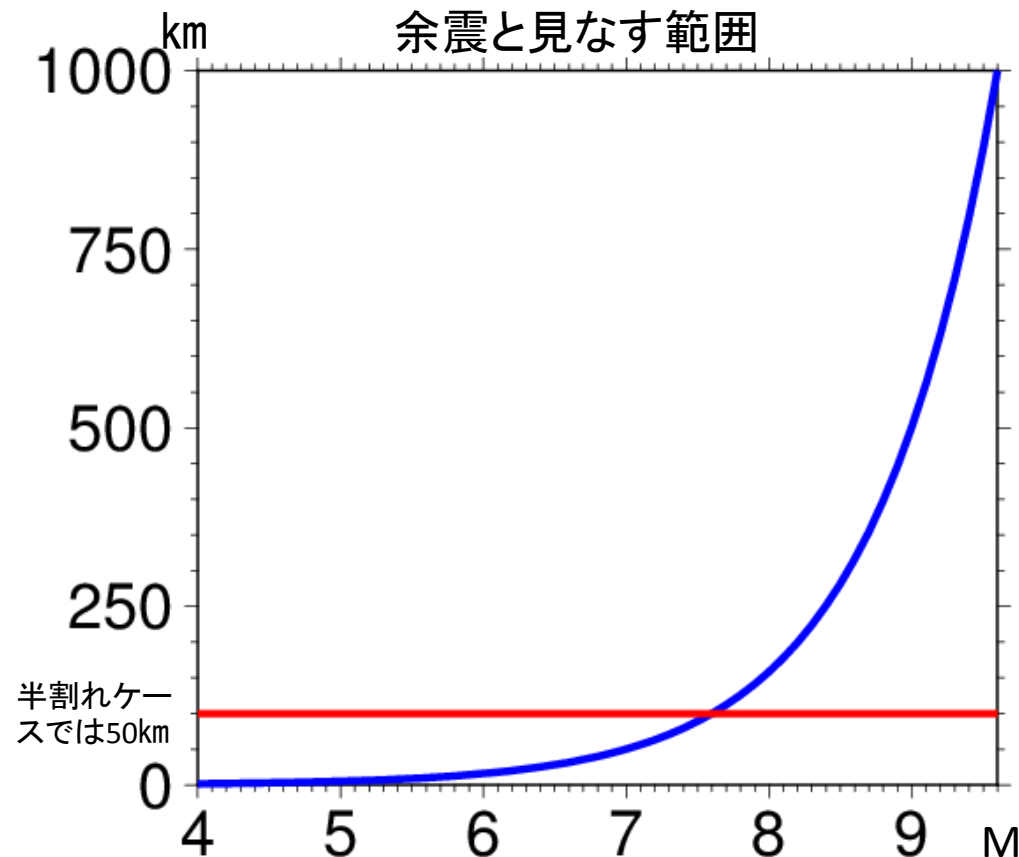
余震の除去方法について

以下の条件を満たす地震を余震とする。

距離に関する条件： $\log L \leq 0.5 M_m - 1.8$ （宇津の余震の長径1962）

時間に関する条件： $t \leq 10^{[0.17+0.85(M_m-4.0)]/1.3} - 0.3$ （宇津の余震の継続時間1962）

規模に関する条件： $M_a < M_m - M_d$ （ $M_d = 1.0$ ）



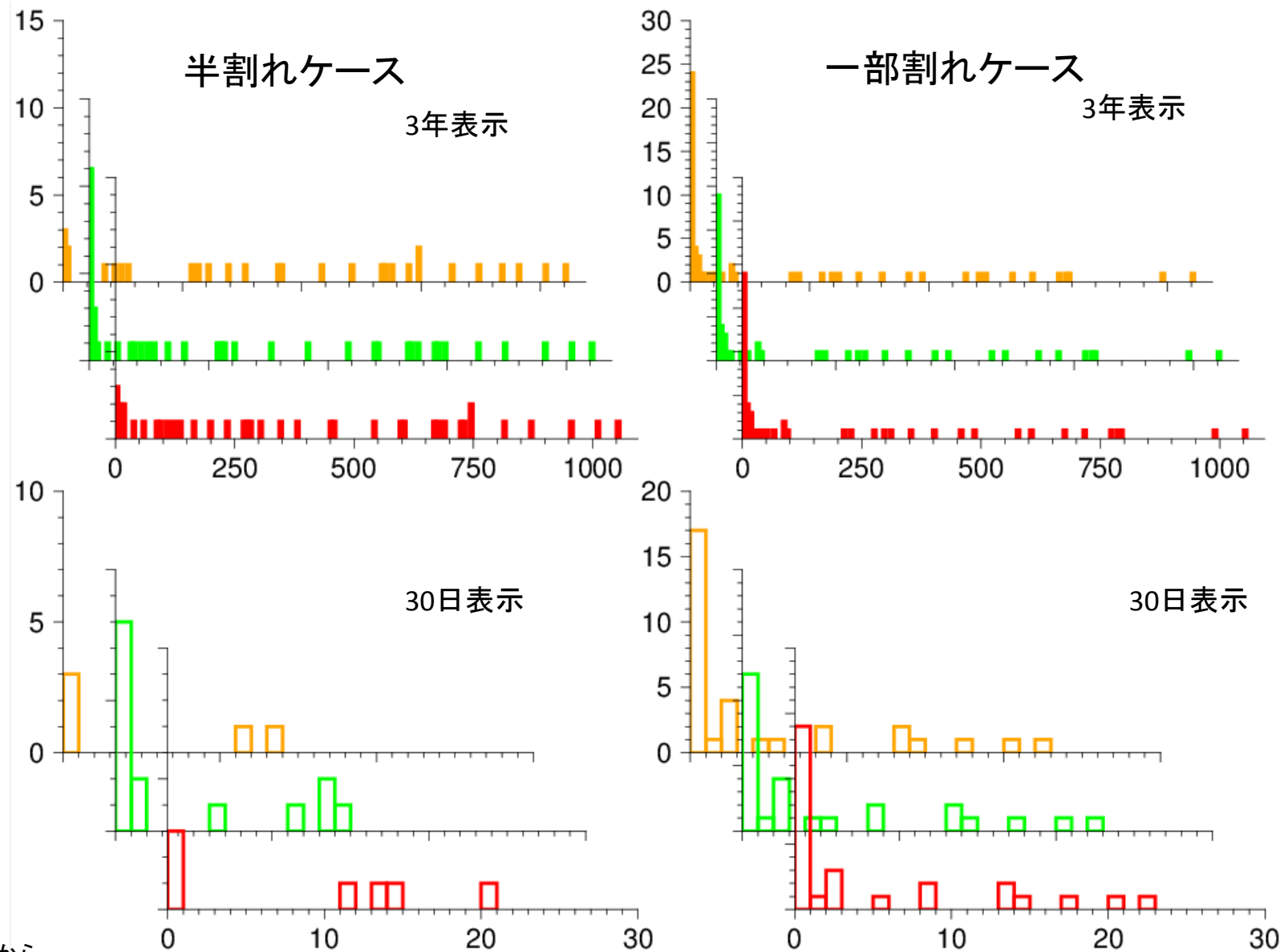
余震の除去パターン

- ①L:宇津 $M_d=0.0$ t:宇津
- ②L:宇津 $M_d=1.0$ t:宇津
- ③L:宇津 $M_d=0.0$ t=14日固定

先行地震と後続地震の検索手順の変更

報告書においては、先行地震と後続地震を1:1としたが、より自然な関係性を見るため、1つの後続地震に対して、複数の先行地震とを許容することとした。

余震除去法の違いによる時間推移の相違



- 各図の上から、
- ・余震除去の規模に関する条件をMd=0.0と設定
 - ・同Md=1.0と設定
 - ・同Md=0.0と設定し、時間に関する条件をMによらず14日と設定

一部割れケースの地震とM8クラスの地震の連動

- M5.5-M6.0の地震の後に、M8クラスが発生
- M6.0-M6.4の地震の後に、M8クラスが発生
- M6.5-M6.9の地震の後に、M8クラスが発生
- M7.0以上の地震の後に、M8クラスが発生

参考

参考

参考

参考

